

令和4年度 和歌山県立紀伊風土記の丘評価

<p>和歌山県立紀伊風土記の丘館長による評価</p>	<p>古墳群の保存整備・公開では、令和2年度に策定した特別史跡岩橋千塚古墳群第3期整備事業計画に基づき、整備事業を推進した。具体的には、天王塚古墳では連絡道路整備工事を完了し、墳丘・石室工事に向けた仮設道路設置工事に着手した。このほか、前山A13号墳及び大日山35号墳の石室滞水対策工事並びに保存修景工事1基を実施した。</p> <p>資料の収集・保存では、寄贈申出のあった資料の受入3件を実施した。適切な収蔵面積と環境の確保は困難な状況ではあるが、その確保実現に向けた新館建設基本設計を取りまとめた。</p> <p>調査・研究では、特別展1回・企画展3回を実施し、その開催に先立ち関連資料調査及び研究のほか、外部機関と協同調査を実施した。</p> <p>教育・普及では、小学校等へ直接出向いて行う出前授業の開催回数が大幅に減少したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため体験事業等の定員を制限したものの、開催回数を増加し、参加者数は前年度より大幅に増加した。</p> <p>運営では、三次元データ公開のほか、新館建設事業の造成、建築、展示・設備の基本設計を実施した。造成基本設計では、建設用地内に存在が確認できた埋蔵文化財を現地保存する計画策定を実現した。今後、各実施設計を確実に進め、令和10年度の新館開館に向けた作業を進める。</p> <p>十分な体制ではない状況においても、職員の献身的な尽力により、岩橋千塚古墳群の保存整備・公開、資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育・普及、運営などの業務を積極的に推進していると評価できる。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>館長による評価を支持する。</p> <p>博物館活動全体が高いレベルで維持されており、多様な博物館活動に職員全員が積極的に取り組んでいる点を高く評価する。</p> <p>また、県教育委員会などの関係機関と連携して、岩橋千塚古墳群の特別史跡及び未指定の古墳群の調査並びに保存と活用を実施している点は、全国的にみても非常に素晴らしい取組と評価する。</p> <p>さらに、古墳群の保存整備・公開で園路改修により安全かつ快適な利用環境の維持に努めている点や県下全域の文化財の収集、再評価等を他機関と連携して実施している点も評価する。</p> <p>紀伊風土記の丘が、より一層活発な博物館活動を行うことにより、和歌山県の文化財の研究・保存・活用等の中心施設になるために職員増員を含めた適切な体制の構築を希望する。同時に、現在の職員の業務量を館長が常に留意することを併せて希望する。</p>

## 1. 岩橋千塚古墳群の保存整備・公開

館長による所見	<p>岩橋千塚古墳群の整備事業は、第3次整備事業計画に基づき、実施した。</p> <p>天王塚古墳の連絡道路整備は、当初工程より遅延したが、令和4年7月に完成し、道路開通イベントを開催した。その後、墳丘並びに石室の整備工事のための仮設道路設置工事に着手した。</p> <p>前山A13号墳・大日山35号墳の横穴式石室では、滞水が問題となっているため、滞水対策工事を着手し、工事が完了した前山A13号墳では石室公開を再開した。大日山35号墳は令和5年度に引き続き対策工事を実施し、完了する。</p> <p>低調な国庫補助交付率や新館建設事業と県教育委員会による第4次追加指定事業などの本格化など、第3期整備計画策定時から情勢の変化があったため、確実な整備事業の実現に向けて、第3期整備計画改訂の検討に着手した。</p> <p>さらに、日常的な管理も、来園者の安全を確保しつつ、計画的に実施している。</p>
評価部会による所見	<p>館長による所見を支持する。</p> <p>副園路の整備など、公開古墳周辺を中心に快適な公開環境を維持したことを評価する。</p> <p>天候不順により古墳の被災が発生した場合も、関係機関と緊密な連携により適切に対処することを希望する。また、第3期整備計画は、新館の開館を視野に柔軟な対応と計画に基づいた着実な保存整備・公開の推進を希望する。さらに、時期・階層・地域の差など古墳群の特徴を活かした整備計画の実施も併せて希望する。</p>

### ①古墳群の維持管理

#### A. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

令和4年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に実施。急を要する場所が出た場合は優先的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。
自己評価・課題・改善策	業務員による日常的な園内の管理・清掃により美観が保たれており、園内を周遊する来園者に好評である。 台風等による土砂の流出にも対応しているが、園路は広範囲であり、優先順位をつけ、予算内において補修・整備をする。

#### B. 古墳群の日常的な保守管理

令和4年度目標	館の業務員により月・週単位で計画的に点検を実施。特に草木の伐採は優先順位をつけて実施。業務日誌をつけて点検箇所を確認する。
---------	---

自己評価・課題・改善策	草木の伐採は、年間でスケジュールを組んで計画的に行っている。 多数ある公開古墳周辺を中心に、草木の伐採を実施した。
-------------	--

②保存・整備

A. 使命・計画に基づいた保存整備

令和4年度目標	整備検討会及び文化庁の指導を得ながら第3期整備計画に基づき整備事業を進める。
自己評価・課題・改善策	整備検討会を2回開催するとともに、文化庁担当官による現地指導並びに協議を各1回実施し、その内容を第3期整備計画や整備工事の実施計画に反映して、整備事業を進めた。

B. 古墳群の整備・修景

令和4年度目標	天王塚古墳の連絡道路の設置を完了するとともに、墳丘・石室整備に向けた、準備工事を実施する。崩壊の危険がある古墳の埋め戻しと修景工事を実施する。事業は国庫補助金を得て実施する。
自己評価・課題・改善策	天王塚古墳連絡道路の設置は遅延したものの令和4年7月に完成し、墳丘・石室整備に向けた仮設道路等の整備工事に着手した。前山B132号墳の埋め戻しと保存修景工事を実施した。 事業は国庫補助金を得て実施したが、要望額に対し国庫補助交付率が低調なため、第3期整備計画進捗に影響が生じていることから、第3期整備計画改訂の検討に着手した。

C. 展示及びその他の博物館活動への反映

令和4年度目標	発掘調査・整備成果を展示及び博物館活動へ反映するとともに教育記者クラブ等への資料提供などにより県民及び県外への広報を行う。
自己評価・課題・改善策	天王塚古墳連絡道路が完成したため、連絡道路開通イベント並びに限定石室公開などを行い、計58名の参加があった。また、同時にスポット展示「天王塚古墳のあゆみ」を開催した。

D. 学術的公表（報告賞等）がなされているか

令和4年度目標	年報・紀要に学術的公表を含む報告を掲載する。
自己評価・課題・改善策	『令和3年度紀伊風土記の丘年報』第49号・『紀伊風土記の丘研究紀要』第11号を刊行し、出土品に関する分析等について掲載した。

E. 古墳群の管理

令和4年度目標	古墳カルテの更新、石室のモニタリングを計画どおり実施する。
自己評価・課題・改善策	古墳カルテは翌年度の更新を予定しており、継続的に実施していく。石室のモニタリングは、実施頻度の改善や気候条件を勘案した調査を実施した。今後、計画どおりの頻度での実施を目指す。

③公開・活用

A. 計画的な公開

令和4年度目標	公開古墳は引き続き石室等を安全に見学できるように対応する。 非公開古墳は期日を定めて石室を公開し、県民に周知する。
自己評価・課題・改善策	前山 A13 号墳と大日山 35 号墳では、滞水対策工事を実施し、工事完了した前山 A13 号墳では公開を再開した。大日山 35 号墳では、令和5年度に引き続き工事を実施する予定である。 非公開古墳のうち、天王塚古墳及び大谷山 22 号墳の限定公開を実施し、113 名が参加した。

B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査

令和4年度目標	園路設置の意見箱を活用するとともに、来館者へのアンケートで整備に関する意見についても追加し満足度とニーズを把握する。
自己評価・課題・改善策	特段の意見はみられなかったが、散策者や学校関係者等から、古墳群の見学・体験について高い評価を得ている。

C. アンケート調査結果の公開活用事業への反映

令和4年度目標	アンケート分析結果について必要な内容を抽出し必要に応じて整備計画に反映する。
自己評価・課題・改善策	日頃からイベントなどで行っているアンケートのほか、公開活用事業へ反映できる意見を抽出できるよう聞き取り調査を進める。

## 2. 資料の収集、保存、保存環境の整備

館長による所見	<p>現在、資料の収蔵スペースが不足しているものの、寄贈の受入は、新館建設の展示計画に鑑みて積極的に進めた。</p> <p>収納・保存は、県教育委員会と協力して適切に移動等をおこない、良好な保存環境を確保していく。</p> <p>新館建設では、現状の資料だけでなく今後の増加を見越した十分な収蔵スペースの確保するための基本設計を策定した。</p>
評価部会による所見	<p>館長による所見を支持する。</p> <p>所蔵資料の他資料館等への貸出だけでなく、ホームページに考古資料や石室データ等の公開サイトを新設するなど資料活用の新たな取組を実施している点や博物館の使命である文化の保存と継承のための資料の収蔵スペース確保に留意している点を評価する。</p> <p>これまで県内になかった保存処理機器の整備やそれを使用する人材の確保は不可欠なので、その整備・確保を含めた体制整備を希望する。また、考古学や民俗学の過去の業績の追跡や資料収集の充実のほか、資料館で新規収集した資料に関する展示会の開催の検討も併せて希望する。</p>

### ①資料収集

#### A. 適切な手続きに基づく資料の収集

令和4年度目標	適正な手続きに基づき資料を収集する。資料収集方針について館内で検討する。
自己評価・課題・改善策	考古資料関係では書籍一括1件、民俗資料では2件の寄贈を受けた。寄贈申出があった場合の受贈基準及び資料収集方針について、検討を進め、令和5年度中の策定を目指して、検討を進める。

### ②資料の保存

#### A. 資料の保存環境は適切か

令和4年度目標	温湿度データを取得しながら壁面ケース等湿度管理のできない展示ケースについての対応策を検討する。
自己評価・課題・改善策	年間を通して温湿度データを取得した。特別展等で借用する資料のうち、特に温湿度管理の必要な金属製品・木製品、文献史料等についてはエアタイトケースを使用している。

#### B. 資料の保存処理

令和4年度目標	保存処理が必要な金属器等資料のリストのうち、保存処理の優先度高い資料は予算状況に応じて順次保存処理を実施する。保存処理の優先順位が低い資料は、RPシステムにより応急措置を順次実施し、金属収蔵室で保管する。
---------	--

自己評価・課題・改善策	金属製品は、金属収蔵室で保管している。保存処理未実施資料等のうち、根来寺遺跡出土品など 84 点を RP システムにより脱酸素・低湿度での保管環境を確保する作業を実施した。今後、計画的に保存処理の実施及び適切な保管作業を実施する。
-------------	---

### C. 資料の整理

令和 4 年度目標	収蔵資料の再整理を行う。西庄遺跡の出土資料は、資料目録の作成を今年度中に完了するとともに、文化庁文化財調査官による整理指導を開始し、今後の重要文化財指定への準備を行う。
自己評価・課題・改善策	西庄遺跡出土資料の重要文化財指定のための作業は、実施できなかったが、令和 5 年度中に文化庁文化財調査官による重要考古資料に係る整理指導を受けて、令和 10 年度の重要文化財指定を目指して作業を進める。

### ③資料の管理

#### A. 資料の点検

令和 4 年度目標	毎日、開館前と閉館時に展示室及び収蔵施設の資料について目視点検チェックを行う。
自己評価・課題・改善策	展示室・収蔵庫内の資料及び展示・収納ケース内の以上のないことを目視で点検するとともに、機材を用いて温湿度を点検した。

#### B. 資料の管理（台帳、データ）

令和 4 年度目標	収蔵資料の再整理を行い台帳・データベースを作成し、管理を行う。
自己評価・課題・改善策	柳川家旧蔵の民俗資料を整理し、商業資料及び生活資料 164 点の目録を作成した。その内容については、紀伊風土記の丘研究紀要第 11 号に掲載した。また、令和 4 年度受贈した民俗資料 2 件、計 63 点の目録を作成した。

### ④資料の活用

#### A. 他機関への資料の貸出

令和 4 年度目標	他機関への収蔵文化財の貸出を行い、収蔵文化財の活用を推進する。
自己評価・課題・改善策	文化庁へ岩橋千塚古墳群出土遺物等、かつらぎ町教育委員会へ船岡山遺跡出土遺物等、岩出市教育委員会へ根来寺遺跡出土遺物、近つ飛鳥博物館へ船戸箱山古墳群出土遺物等、有田市教育委員会へ野井銅鐸の貸出を実施した。

#### B. 図書の収蔵

令和 4 年度目標	報告書等の寄贈図書について再整理を行い、使用頻度の低い図書を収納しスペースを確保することにより効率的な活用ができるよう整備する。
自己評価・課題・改善策	寄贈図書は、押印、リスト登録を行って、活用している。使用

	頻度の高い図書は、常時活用できる状態で保管し、活用頻度の低い図書は収納のうえ、保管している。
--	--

C. 資料のデータベースの公開

令和4年度目標	風土記の丘ホームページで公開するためサイトの構築を行うとともに、館収蔵資料のデータベースを整備し、順次公開する。館収蔵品や古墳群の三次元データの取得を行い、ホームページ上で公開する。
自己評価・課題・改善策	ホームページ上にサイトを公開し、考古資料約 100 点のデータベース公開のほか、古墳約 25 基の横穴式石室三次元データ又は墳丘等の写真の公開を実施した。ホームページ掲載写真は、申請を要さず利用可能とすることで、写真の利用促進を期待している。 このほか、前山 A67 号墳・前山 A99 号墳・将軍塚古墳の 3 古墳の三次元データの取得を行った。

### 3. 調査・研究及び展示・公開

館長による所見	<p>特別展、企画展とそれに関連調査・研究については、ほぼ計画どおり実施できている。</p> <p>特別展は、岩橋千塚古墳群を築いたとされる古代豪族紀氏とその勢力基盤に焦点をあて、宮井用水の開削とその後の歴史的な展開を考古資料と歴史資料を用いて通史的に紹介した。</p> <p>企画展は、古代の紀伊国、くだものの生産具、和歌山の考古学史について展示を行ったものの、企画展図録を作成出来ていないのが、今後の課題である。</p>
評価部会による所見	<p>学芸員の研究活動が、業務多忙にもかかわらず積み重ねられており、活動が盛んである点を評価する。</p> <p>博物館活動の記録として企画展の図録を作成すべきであるが、その作成が困難な場合はその代替の記録作成や情報発信を希望する。今後も県全体の研究者との連携を意識した研究活動の実施や県外の機関との積極的な連携を併せて希望する。</p> <p>さらに、学芸員の研究活動を評価指標に追加してもよいと考える。</p>

#### 3-1. 調査・研究

##### ①調査

##### A. 計画に基づいた調査・研究

令和4年度目標	各機関にて、文献・資料調査等、展覧会に関連した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善策	特別展「紀氏大地を開く-宮井用水と耕地開発-」の展示に関連する悉皆調査及び研究を行った。この他、企画展の開催に関連して、調査研究を行った。展覧会に係る調査研究以外の基礎的調査や研究を実施可能な体制整備が今後の課題である。

##### B. 外部機関・団体等との共同調査・研究

令和4年度目標	他業務とのバランスをみて実施を検討する。
自己評価・課題・改善策	<p>京都橘大学と協力し、古墳時代の調理方法について復元土器を用いて実験を行った。</p> <p>特定国立研究開発法人産業技術総合研究所と独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が推進する文化財デジタルツインプロジェクトに協力し、古墳群の三次元計測や三次元計測データ表示方法の開発に参与した。</p>

##### ②調査・研究成果の活用

##### A. 展示及びその他の博物館活動への成果の反映

令和4年度目標	調査・研究成果を特別展等で活用し、広く県民に広報する。
---------	-----------------------------

自己評価・課題・改善策	各企画展の展示講座と特別展シンポジウム4回、特別展・各企画展で展示解説を計5回開催し、展示内容を広く県民に広報した。今後も、展示への理解が深まるよう努め、展示関連イベントを企画する。
-------------	---

B. 学術的公表（館研究紀要、学会誌等）

令和4年度目標	館研究紀要等に調査・研究成果を公表する。
自己評価・課題・改善策	『紀伊風土記の丘研究紀要』第11号を刊行し、調査研究成果を7本掲載した。このほか、『紀伊風土記の丘年報』第49号を刊行し、整備事業に係る調査成果4件を掲載した。

3-2. 展示・公園

①常設展

A. 計画的な展示替え

令和4年度目標	特別展後などの期間を利用し、岩橋千塚を中心としながらも通史、県内の民俗文化財を把握できる展示とする。
自己評価・課題・改善策	企画展・特別展以外に、スポット展1回・ミニ展示3回の計4回の展示を実施した。このほか、期間限定ながら、新型コロナウイルス感染拡大対策を講じたうえで、考古資料に直接触れる展示の再導入を行った。

B. 計画的な保守点検

令和4年度目標	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施。また、重要文化財をはじめとした資料の防犯対策のため、監視カメラでの管理を適正に行う。
自己評価・課題・改善策	開館前と閉館前にチェックシートを用いた点検を実施し、展示ケースの施錠を確認した。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和4年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらえよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。
自己評価・課題・改善策	設置場所の改善とともに受付時に手渡しをする等により、アンケート調査を実施し、展示内容の他についての意見も徴取したが、有効な意見は取得できていない。

D. 入館者の常設展示に対する満足度

令和4年度目標	アンケート内容を検討し、満足度とニーズを把握に努める。その上で、展示内容の変更やスポット展等の内容を検討する。
自己評価・課題・改善策	常設展については、常設展のみの期間が短く来館者も少ないため、有効なアンケート結果を得ることができなかった。より多くの来館者の意見を聞けるようアンケート方法等を工夫する。

②特別展・企画展

A. 展示の内容、出品資料、構成、工夫等

令和4年度目標	協議会、整備検討会の意見を受け適正に実施する。
自己評価・課題・改善策	協議会、整備検討会を各2回開催し、意見を得た。そこで、展示方法や広報等の指摘があったため、水路灌漑の方法の模型を用いた理解しやすい展示やSNSを用いた情報発信方法等に反映した。

B. 図録・パンフレット等の作成

令和4年度目標	特別展では図録、ポスター、リーフレット、企画展ではリーフレットを作成する。
自己評価・課題・改善策	特別展では図録、ポスター、リーフレットのほか、講座の予稿集を作成し、企画展では展示品一覧などを作成し、配布した。

C. 特別展見学者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の調査

令和4年度目標	アンケートや聞き取り調査により把握する。より多くの入館者に記入してもらい、統計的な分析が実施できるよう、アンケートの内容や設置場所の改善とともに受付時に手渡しするなど工夫を行う。
自己評価・課題・改善策	特別展アンケートは、展示構成の最後にアンケート用紙と投函用の箱を設置して実施し、159件の回答を得た。回答者の年齢層は60歳以上が多いものの、40歳代や小中学生からの回答もあり広い年齢層が観覧した。居住地は県内以外に県外の入館者も多くあり、全体の3割を占める。特別展を通じて水路の開削と水田開発の歴史とともに、現在の水田景観が古くに形成されてきたことをについて紹介し、地域の歴史への理解を深めることができた。

D. 特別展見学者の展示に対する満足度

令和4年度目標	アンケート内容を検討し、満足度とニーズを把握に努める。その上で、次年度以降の展示企画の内容を検討する。
自己評価・課題・改善策	期間中に展示室や関連イベントにおいてアンケート調査を実施した結果、展示企画内容については、高校生以上が「とてもわかりやすかった」又は「わかりやすかった」という回答が80%を占め、中学生以下でも70%となった。また県内外研究者等による講演・講座は専門領域や時代の異なる専門家を招き、さまざまな視点から耕地開発・宮井用水をテーマとした講演が毎回好評であった。

③県民ニーズに即した運営

A. 資料館入館者数：当該年度の入館者

令和4年度目標	前年度比10%増（12,408人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	入館者12,238人（前年比：958人増・108.5%）と増加したが、目標は達成出来なかった。また、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準の約6割に留まっている。

B. 入館料収入。当初計画に対する実際の収入達成率

令和4年度目標	前年度比10%増(689千円)を目指す。
自己評価・課題・改善策	有料入館者は前年比50人増のため、入館料収入も26,120円増となったが、639(千円)と目標は達成できなかった。

C. 調査結果を受けた運営

令和4年度目標	調査結果を分析し、必要に応じてイベント種別・開催回数・運営方法の改善を検討する。
自己評価・課題・改善策	個別の調査結果を分析し必要に応じて各イベント運営方法の改善に向けて、各イベント開催マニュアルの作成を行った。また、参加人数などの検討を通じて、イベント開催回数の縮減を実施した。今後、さらなる開催イベント検討を進めていく。

#### 4. 学習支援・教育普及活動・人材育成

館長による所見	<p>学校の遠足対応やモノづくり体験、ふどきっずなど、学習支援・教育普及活動は紀伊風土記の丘が全国的に進んだ状況にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、遠足受入やイベントの大半を制限せざるを得なかった。しかし、そのような状況においても、感染対策を講じたうえで、一定の活動を実施した。</p> <p>人材育成につながる業務として、博物館実習・インターンシップ・教員研修の受入やジュニア学芸員の募集・発表・展示等を実施した。</p>
評価部会による所見	<p>学習支援・教育普及活動は、積極的に活動しているだけでなく、個別のニーズに対しきめ細かな対応により活動の質的向上に努めている点を評価する。</p> <p>人材育成の機会の創出のため、博物館実習やインターンシップの受入に関して館独自の情報発信の実施、教員対象研修への参加者の増員及びボランティア育成の充実を希望する。</p>

##### ①学校・団体の利用

###### A. 学校・団体の受入数、受入人数（一般団体を除く）

令和4年度目標	前年度比10%増（4,875人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	来館は、118校（前年比：36校増・143.9%）・6,048人（同：1,461人増・131.9%）となり、目標達成した。しかし、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大以前の9割程度に留まる。

###### B. 出前授業の件数、利用者数

令和4年度目標	前年度比10%増（32件）を目指す。
自己評価・課題・改善策	出前授業数は17団体（前年比：53.1%）と大幅に減少した。市町村教育委員会等への広報を改善し、団体数増加を目指す。

###### C. 職場体験実習・職場体験学習の受入数。

令和4年度目標	高校生及び大学生インターンシップ、就業体験、実習訓練等について、人員、日程等を勘案し、可能な範囲で各数名程度受け入れる（前年並み）。
自己評価・課題・改善策	中学生職場体験など0名（前年比：24名減）、高校生インターンシップ4名、大学生インターンシップ4名（同：2名増）を受け入れた。

###### D. 利用者の満足度、ニーズ

令和4年度目標	遠足等実施前後に教員等から遠足の目的やカリキュラム上の位置づけ等の意見を聴取する。また、学校を訪問した際、校長等から聞き取りを行い、遠足実施の評価や新たなニーズを把握する。
自己評価・課題・改善策	事前打ち合わせの後及び実施後聞き取りを行った。体験学習等に

	関する改善要望は特になく、学習のねらい、内容のニーズに応えられている。今後も意見の聴取を行い、児童生徒、学校の学習やねらい等のニーズに応じた学習支援を行うとともに、申込方法の改善を検討する。
--	---

②講演会・博物館講座・展示解説等

A. 講演会・博物館講座・展示解説等の回数

令和4年度目標	十分な感染拡大防止対策を講じた上で、22回実施する。
自己評価・課題・改善策	目標を上回る23回（前年比：104.5%）開催した。新型コロナウイルス感染拡大対策のため、会場収容人数の50%で開催した。

B. 講演会・博物館講座・展示解説等の参加者数。

令和4年度目標	募集定員の50%以上（前年度目標並み）。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集定員は会場収容人数の50%とする。
自己評価・課題・改善策	502人（前年比：106.4%）と参加者は微増であったが、1回当たりの参加者数は前年度とほぼ横ばいであった。

C. 参加者の満足度、ニーズ

令和4年度目標	アンケートにより把握する。また、講演等終了後直接聞き取りを行う。
自己評価・課題・改善策	各講座・講演会ごとにアンケートを実施し、その都度発表内容・方法について調整した。

③体験学習・ワークショップ・関連行事等の体験的プログラム。

A. 体験学習等の回数

令和4年度目標	十分な感染拡大防止対策を講じた上で、61回実施する。
自己評価・課題・改善策	天候不順により中止したイベントも生じたが、目標の61回（前年比：196.7%）開催した。開催に当たっては、基本的な感染症対策を十分に講じたうえで実施した。

B. 体験学習等の参加者数

令和4年度目標	募集定員の80%以上（前年度目標並み）。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント内容に応じて募集定員を減らすなどの対策を個別に検討する。
自己評価・課題・改善策	1,113人（前年比：136.7%）と参加者数は増加したが、1回当たりの参加者数は前年度から減少した。

C. 参加者の満足度、ニーズ

令和4年度目標	アンケート及び参加者に直接聞き取りを行い、満足度をチェックする。必要に応じて次回以降の体験に反映する。
自己評価・課題・改善策	満足度は5段階評価で「とても満足した」が76.8%、「満足した」が15.8%、「ふつう」が2.6%、「少し満足できなかった」、「満足できなかった」がともに0.4%、無回答が4.0%であった。上位2段階評価が、令和3年度同様約93%に及び、非常に高い満足度を維持

	持した。引き続き、参加者数を中心にニーズや満足度等のアンケート分析結果に基づき、イベント内容・回数などの検討し、実施する。
--	---

④博物館実習

A. 博物館実習生・インターンシップなどの受け入れ

令和4年度目標	人員や日程等を鑑み、可能な範囲で博物館実習生・インターンシップなどを受け入れ、考古・民俗学に興味を持ってもらうとともに、仕事に対する意欲、関心を高めてもらう。
自己評価・課題・改善策	8月に博物館実習5名、大学生インターンシップ4名の受け入れを行い、実際に収蔵民俗資料に関するミニ展示について企画・展示作業を行った。

⑤ボランティア

令和4年度目標	ボランティア養成講座により新たなボランティアを養成する。活動中のボランティアの育成及び活動の支援並びに連携を実施するとともに生涯学習に役立てる。
自己評価・課題・改善策	ボランティア養成講座を開催し、4名のボランティアを養成した。

⑥県内博物館施設との連携

A. 連携事業の実施

令和4年度目標	スタンプラリー、風土記まつり等の実施により、県立博物館4館で連携事業を実施する。
自己評価・課題・改善策	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、スタンプラリーを中止するとともに、風土記まつりの開催時期の変更と規模縮減を行ったため、連携事業は実施出来なかった。

⑦県民ニーズに即した運営

A. 入館料以外のその他の収入

令和4年度目標	前年度比10%増(3,297千円)を目指す。
自己評価・課題・改善策	図録販売のほか、出前授業の実施や勾玉キットなど自宅で体験できるものを販売により、3,283(千円)の一定の収入を確保したが、目標は達成出来なかった。

B. 上記結果を受けた運営

令和4年度目標	上記結果及びアンケート等を分析し県民ニーズに即した運営となるよう検討する。
自己評価・課題・改善策	新型コロナウイルス感染拡大防止を念頭に置いて、対処した。

## 5. 博物館の運営

館長による所見	<p>紀伊風土記の丘の新館建設計画は造成、建築、展示・収蔵設備の基本設計を策定したほか、古墳群の整備事業やホームページ・3Dコンテンツの作成・公開を実施した。今後も、新館建設関連事業を着実に進める。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント参加者数の制限を実施していたが、イベント開催回数が令和3年度より増加したことから、参加者数は増加した。今後も工夫しながら博物館活動を続ける。</p>
評価部会による所見	<p>館長による所見を支持する。</p> <p>コロナ禍においても積極的なイベント開催実績を高く評価する。来館者の増員に向けて、イベント内容の改善や広報の充実、並びにこれらの活動を担当する部署の設置を含めた適切な体制の構築を希望する。</p>

### ①組織・人員

#### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等及び同体制についての日常的な取り組み

令和4年度目標	紀伊風土記の丘の防災計画指針・紀伊風土記の丘暴漢等侵入者対応指針について、職員全体で読み合わせを行い、役割分担等を確認する。また、防災訓練等を行う。
自己評価・課題・改善策	当館における「自衛消防組織」及び「暴漢等侵入者対応組織」のマニュアルを作成し4月の全体会議で職員に役割分担の確認を行った。文化財防火デーでは和歌山県消防署と協同して大規模に防火訓練を行い、有事の際の役割、動きの訓練を行った。

#### B. 個人情報の適切な保護・データ管理

令和4年度目標	和歌山県個人情報保護条例に基づいて行う。
自己評価・課題・改善策	和歌山県個人情報保護条例に基づいて実施した。

#### C. 館内外の研修に対する職員の参加体制及び参加実績

令和4年度目標	職員に可能な限り受講を奨励し、研鑽を積む。必要な情報は全員参加の館内研修や月例会で共有する。
自己評価・課題・改善策	教育庁及び館内の人権研修を受講し情報共有を行った。専門的な研修として、文化庁主催の文化財保護行政講座や和歌山県教育庁主催担当者会議などに参加した。

### ②県民ニーズに即した運営

#### A. 園内利用者数：当該年度の利用者数

令和4年度目標	前年度並み（19万5千人）を目指す。
自己評価・課題・改善策	197,696人（前年度比：2,508人増・101.3%）。H25年頃から入館者と同様に減少傾向にあったが、微増に転じた。今後も魅力ある史

	跡整備、広報に努める。
--	-------------

B. 民家利用件数：当該年度の利用件数

令和4年度目標	受け入れ可能な環境を整え、申請があった場合は、適切な利用であれば、従来どおり使用させる。
自己評価・課題・改善策	民家を利用した昔の暮らし体験は、17件（前年度比：170%）と増加した。

③施設設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、改修や修繕、衛生管理

令和4年度目標	建築・設備などの定期点検を実施、改修等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善策	日常、職員による施設の目視点検を行い、日誌に記録。毎年、建築基準法第12条に基づく定期点検業務を実施する。 また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度に paypay、令和3年度にクレジット決済を導入し、県民のニーズに答えるべく設備の充実を図った。

B. 園内の日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持、衛生管理

令和4年度目標	館の業務員により計画的に実施。大規模な整備・営繕等は緊急性を考慮し予算内で実施
自己評価・課題・改善策	日常、職員による園内の目視点検及び必要に応じて修繕対応する。

C. 民家の日常的なメンテナンス等による施設の保守管理、毀損個所の修繕や予防措置

令和4年度目標	館の業務員により日常的なメンテナンスを毎日実施。修繕等は緊急性を考慮し予算内で実施。毎日業務日誌をつけて確認をする。
自己評価・課題・改善策	今後も引き続き、来園者、来館者に安心安全に利用いただくため、毎日職員による目視点検を行い、日誌に記録。必要に応じて設備等の修繕等、整備を行う。

D. 新館建設計画・各民家の保存活用計画

令和4年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設基本設計を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を検討する。
自己評価・課題・改善策	県立考古民俗博物館（仮称）基本計画の中で、史跡地内に含まれる移築民家の活用について定めている。

④快適性の向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応

令和4年度目標	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。
自己評価・課題・改善策	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等への対応を検討する。特に障害者差別解消法施行に伴い、職場研修を行うとともに、ハード面、ソフト面において可能な範囲で合理的配慮を行う。

B. 快適性の向上について上記以外の整備

令和4年度目標	県民が園内全体において快適に利用し、心身ともに満足してもらえるよう取り組む。
自己評価・課題・改善策	平成28年に特別史跡に追加指定された天王塚古墳について、平成30年度から着手していた連絡道路を令和4年7月に完成した。古墳公開地区の前山A地区の副園路も約25mも擬木階段を整備することで、古墳見学の快適性を向上させた。

⑤民家

A. 計画的な公開

令和4年度目標	恒常的に清掃を行い、案内資料において、引き続き入りやすい落ち着いた空間としての状態を保つ。
自己評価・課題・改善策	日常的な管理を行い、公開を行っているほか、民家ガイドツアーを1回開催した。ガイドツアーへの参加者増への対策が課題である。

B. 建物の個性・魅力をひきたてる活用

令和4年度目標	岩橋千塚古墳群保存活用計画の内容を踏まえ、新館建設基本設計を策定する中で、資料館、民家を含む活用方針を具体的に検討する。
自己評価・課題・改善策	新型コロナウイルス感染拡大により令和2年度より外部団体による民家利用イベントは縮減していたが、令和4年度は外部団体により1回の活用があった。

⑥広報・情報発信等

A. 県民からの直接的情報提供：問い合わせ（電話、来館等）に対する適切な対応

令和4年度目標	相談者個々に対して丁寧に適切な対応をすることを職員一同確認する。
自己評価・課題・改善策	個々の問合せを適切に対応し、特に問題はなかった。今後も引き続き同様に丁寧な対応を行う。

B. メディアへの情報発信

令和4年度目標	各月ごとに加えて参加者が少ないと見込まれるイベントについて記者クラブへ資料提供を行う。特別展、企画展やイベントについて、直接メディアに出向いて広報する。
自己評価・課題・改善策	各イベントを報道関係に資料提供した結果、テレビ、新聞等で14回取り上げられた。

C. ホームページによる広報：ホームページアクセス件数、更新回数。

令和4年度目標	ホームページ及びFacebookの閲覧数ともに令和元年度を上回るよう、即時的にイベントの情報や結果、満足度を広報するなど内容の充実化を図る。ホームページの充実のために、動画公開を進める。
自己評価・課題・改善策	ホームページに動画を投稿して、園内案内や埴輪・勾玉の作り方な

	どをみられるようにしている。Facebook や Twitter で月に 3～5 回情報発信をし、好評を得ている。
--	---

D. 広報印刷物の制作：ポスター、チラシ等の情報提供、広報活動

令和 4 年度目標	イベントガイド、特別展ポスター・チラシを作成。その他の展示・イベント等はプリンター・輪転機により作成。市町村教育委員会校長会に出向いて直接校長へアピールするとともに、必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布する。
自己評価・課題・改善策	イベントガイド等チラシ・ポスター作成を行い、1,517 件（前年度ほぼ同数）への郵送並びに必要に応じて和歌山市及び近隣市町村内小中学生全員にチラシを配布するなどして、周知を図った。さらに、和歌山市及び紀の川市校長会にて、当館実施イベントの説明を実施した。

E. 使命、目標、計画等の公開

令和 4 年度目標	ホームページに公開する。
自己評価・課題・改善策	ホームページで博物館評価制度、和歌山県立考古民俗博物館（仮称）基本計画書（改訂）を公開した。